

---

## これから考えます

1104

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

これから考えます

### 【コード】

N6898K

### 【作者名】

1104

### 【あらすじ】

2浪で合格した主人公が故郷に戻ってからの身内とおはなしです。

## 帰省

ぼんやりと霞んだ目に、懐かしい風景が飛び込んできた。バスから見るその緑色の景色は、1年前と変わることなく私を出迎える。長らくこのような田園風景を忘れていた私は、無意識に安堵の息を漏らしていた。

バス停に着くと、我が家が見える。高校生の際は幾度となく見た景色だが、今日の私にはとりわけ輝いて見える。

1年前、地元の長崎を離れ、福岡で浪人生活を送っていた私は、周囲の反対を押し切り、九州大学の医学部を受験した。センター試験が終わったとき、九州大学は諦めるべきだとはつきり考えたはずだった。しかし、予備校の合格実績を上げるための策略にまんまと乗っかってしまったのであろうか。過去の模試の成績がよかったために、自分でも受かるのではないかという期待を抱いてしまっていた。周りの医学部志望者がこぞって他の大学の医学部に合格する中、私はもう1年予備校に投資することになってしまったのだ。それから1年、私はこれまで以上に死に物狂いで勉強に励み、何とか2年越しの夢を叶えることができたのであった。2浪目が決まったとき、母は私を労うでもなく、ただただ責めた。高校時代の担任からは、地元の医学部なら受かると言われていたからだ。そこを受験していればまた違った結果になったであろうとのことだった。

そもそも、我が家は裕福ではなかったのだ。長崎のような田舎の中でも更に田舎に我が家はあった。両親共に畑仕事で私と私の弟の2人を養ってきたのだった。そのため、幼い頃から私たちは、時代錯誤なほどに贅沢を知らずに暮らしてきた。本当ならば1年の浪人ですら馬鹿にならない授業料と寮費なのだ。

年子の弟は、国公立の工学部に何とか現役で進学することができた。私と弟との学力には、かなりの差があったことには間違いなかった。

実際、両親が合格を危ぶんでいたのは、私よりも弟のほうだったのだ。しかし身内では、九州一の大学の医学部に落ちた人間と、地方の国公立の工学部に受かった人間とでは、後者の方が随分利口だった。私は大学が不合格となつてから予備校の寮に入寮するまでの間、本当に居場所がなかったのだつた。

我が家の扉に久々に手をかける。予定時刻より1時間も早く到着してしまつたからだろうか。鍵はしっかりと閉められていた。私が呼び鈴を押そうとすると、ドアノブをひねる音に気付いた母が鍵を開けた。

「あら、早かつたね。」

それが母の第一声であつた。

「早かつたねって、無事に合格したとやけん、おめでとぅぐらい言つてくれてもいいやん。」

「あんたは2浪目やけん受かるとは当たり前やる。仕方なかけん小さか声で言つてやるけん。おめでとぅ。」

こう余計なことを言うところは昔と全く変わっていなかった。しかし私は私で対抗することはできないことははっきりと把握していた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6898k/>

---

これから考えます

2010年10月17日12時20分発行